

# より効果的な取り組み方、指導の在り方 (特色ある取組)

以下の各学校の実践資料により特色ある取組の詳細を紹介する。

## 【学校力を生かした主な取組】

- ・メンターチームによる組織的支援・・・・・・・・・・・・・・（大樹町立大樹小学校）
- ・近隣校と連携した研修システムの構築・・・・・・・・・・・・・・（北広島市立大曲小学校）

## 【教師力を生かした主な取組】

- ・日常的な研修サイクル・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・（旭川市立愛宕東小学校）
- ・短期的シャドーイングサイクル・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・（釧路市立芦野小学校）
- ・ジョブシャドーイング型初任者研修プログラムの作成・・・・・（室蘭市立旭ヶ丘小学校）

## メンターチームによる組織的支援

### 【大樹町立大樹小学校】

メンターチームを組織し、初任者及びメンティへ定期的に指導・助言を行うとともに、メンターは初任者への指導・助言を行うことで自らの実践を深化させている。

初任者はメンターチームにより、日常的に実践例や課題を共有し、研修目的を常に明確にすることで、指導方法等の改善に直結する効果がある。

## 大樹小学校におけるシヨブシャドローイングのとりくみ

### 大樹小学校の体制

- ・シヨブシャドローイング対象初任者は2名（4年生と5年生に副担任的に配置）
- ・指導体制の類型はB型（学級担任と初任者研修担当教諭）

### シャドローイングの内容

- ◆大樹小学校の基本的なシヨブシャドローイングの進め方

学校力向上に関する総合実践指定校として、全職員の共通理解と協力のもとに指導教諭だけでなく、他学年や特別支援学級の教諭と連携しながら多くの教諭がシヨブシャドローイング（初任者研修）に関わるような体制で研修を進める。

- ◆おもな5つのとりくみ

- ・類型B型によるクラス担任とT・T（副担任）を組んでシャドローイングをする。
- ・学年で連携しT1として授業を進める中で、他学級担任から指導を受ける。
- ・専科教諭のシャドローイングや指導教諭以外のベテラン教諭からの指導を受ける。
- ・他学年学級や特別支援学級の授業をシャドローイングし担任の指導を学ぶ。
- ・メンターチームによる、定期的なメンタリングにより教師力の向上をはかる。

- ◆とりくみの詳細

～クラス担任とTを組んでシャドローイングでは～  
 ・初任者が配置されているクラスの担任とTを組み、T2や副担任的な立場として授業に関わる中で、学習指導の方法や児童との関わり方を間近で観察できるようにする。  
 ※学習指導面に限らず生徒指導や保護者との関わり方など、学級経営全般も含まれる。

～学年で連携したシャドローイングと授業の指導では～  
 ・隣接クラスでは、時にはT1として授業を進める制になり、観察して得たものを実践で検証する。その際、T2となる隣接クラス担任に授業について観察してもらい、授業後に振り返りなどを行う。  
 ※T1としての授業を通じて、自分の指導の課題点を明確にすることで、以後の解決や克服に向けたシャドローイングの充実をはかる。

～専科教諭のシャドローイングやベテラン教諭による指導では～  
 ・総合実践指定校として、加配状況を生かした一部教科などの専科制を導入している本校の授業実践（朝・紅・緑）を観察し、ベテラン教員の良さを学び取れるようにする。  
 ・担任や指導教諭以外のベテランの教諭（教務主任）による、授業観察と詳細な事後指導による授業力向上をはかる。

～他学年学級や特別支援学級の授業のシャドローイングでは～  
 ・様々な学年の授業や生徒指導を観察することができるようシャドローイングを進める。そこではただ観察で終わるのではなく、「授業観察シート」に授業の感想や授業内容や生徒指導についての質問を記載し、担任に返事を書いてもらい本人に還元する。

～メンターチームによる活動では～  
 ・OJ Tの一環としてのメンターチームによる定期的なメンタリングを通じて、実践例や課題を共有しシャドローイングの目的や視点につなげる。  
 内容は、教科指導、保護者対応（家庭訪問）、行事のとりくみ、先輩教師の授業参観、教室環境の参観など多岐にわたって実施されている。  
 ※週1回、1～4年目の教員（7名）と5年目教員（メンター）・管理職で実施

- ◆課題点や改善点について（一学期の課題点・二学期の克服点・三学期の改善や工夫点）

様々な制約等を克服し報告作成にとまらず、次につながる価値ある内容の構築

一学期に見えてきた課題点を△、その克服に向けた二学期のとりくみや成果を○、更に内容の充実や改善にむけた三学期の工夫や計画を★で表示しています。

- ・シャドローイングの事後指導の確保（指導教諭の時間的・制約での課題の克服面）
  - △定期的な話し合いの場の設定が難しかった。（校内体制や専科制の難しさ）
  - △リフレクショントの作成はされたが、担任教諭や指導教諭、管理職との事後の話し合いは十分に持たず、有効的に活用するには至っていないかった。
  - 他学年担任の授業のシャドローイングにより、児童の発達段階に応じた指導法や支援について学びの機会となった。また、指導法や生徒指導面の質問に答えてもらう形で、日頃の自分の疑問の解決の糸口となった。さらに、想定外の効果として、接点が多かった教諭との結びつきが得られた面や、授業を参観してもらった教諭も、初任者からの質問に答える中で刺激となり、もう一度見直すべき機会となった。
  - 指導教諭以外の教諭による指導では、初任者のシャドローイングが実際に自分の授業でされることで、目的や効果を実感してもらつ中で、学校全体で研修する気運は高まったと感じられる。
  - また、指導教諭以外の教諭による指導も、指導体制の類型から逸脱するが、学校全体の共同体制や、その時点ですぐり時間をかけてできる人が指導にあたることのメリットの大きさを実感できた。これは、担当教諭や指導教諭の個人の型・個性（良い面も悪い面も含め）に、初任者がはまりすぎない方法であると同時に、担当教諭の負担軽減の一方策であると考えられる。
  - 板書写真を活用した事後指導（付箋貼り付け方法）は、指導教諭が自分の空き時間検証し指導できる面では、有効であった。また、付箋をはった板書写真を返すだけでなく、空いた時間を見つけて板書や授業について話し合うことができた。また、取りためた板書写真から、自分の授業や板書の課題を短時間で確認でき授業計画に利用できる面では有効であると考えられる。
- ・目的意識を持ったシャドローイングの視点の明確化
  - △自分の授業とリンクさせながら、授業に足りないものや上手くいかない原因に視点をあてたシャドローイングの目的意識が希薄であった。（自己分析と他者の評価）
  - 担任以外の教諭、専科の教諭、ベテラン教諭との交流から、自分の抱えている疑問や指導の糸口を見いだすことができた。
  - ★シャドローイングの視点を明確にする。内容として（板書・発問・支援・規律）の絞り込み、一定期間をかけて、担任以外にも多くの教員（他学年・支援学級）の授業を観察していくくなく研修を進めていきたい。

- ・生徒指導面における問題への対処法などのシャドローイング
  - △担任教員には、常に初任者教員との相談を意識してもらう中で、学年団として児童への対応などに協働であたってもらえた。ただ、保護者への対応面では、個人同士の対応や勤務時間外（夜）の対応があり、この面はシャドローイングがしづらい面であると考えられる。
  - △状況を素早く察知して担任・学年内の話し合いに進んで参加したり、自ら児童につきないで、話を切り出す面といった対応面については、担任以外の指導教諭は把握できていないところが多分にあった。
  - 指導教諭が理科専科で、初任者が入っているクラスの児童の授業をしている関係で時間があるときは、児童について色々な話（指導も含め）を深くすることができた。また、定期的には実施できなかった。
  - ★学校全体としての対応を学ぶために生徒指導部に所属していない二人には、指導部に協力してもらい、生徒指導上の協議がある時には、部会参加に声をかけてもらうなどの協力体制をとっていきたい。
  - ※本校の新採用教諭は、少年団活動の指導もやっている。学校教諭とは違い社会教育の範囲ではあるが、異学年集団を指導する生徒指導の面や保護者対応、他団体との結ぶつきでは、生徒指導と社会との関わりの中で重要な学びの場となっている。一般社会における人との結びつきや学校とは違った社会教育における組織のあり方を学ぶ上では、教員としての資質の向上につながる一面を見いだすことができる。

# 画像資料によるとりくみの紹介

## 1. 他学年授業のシャドーイングから

4年生に入っている初任者が、6年生家庭科授業を参観時のシート

・参観クラス 6年2組 教諭 桑田先生

・授業内容 教科 家庭科

内容(単元名) クリーン大作戦の計画を立てよう。

・授業を参観して学んだことや質問など へは質問

課題と、実習のゴールを明示してから、具体的な説明、指示をこめていたので、目的意識を持って児童は話を聞いていたと思う。  
計画書に書かなくていいものは、教員は用意しないことを明示することで、具体的な話し合いになった。

グループ(4-5人)で交流する際に、参考までに参観しているだけの児童がいなかった。自分の考えを友達と伝えることで、友達のことをしっかりと聞くことができていた。話し合いを通じて、仲良く受けた。他の教科と話し合いの場を多く設定し、おこなっているのが教えていた。教室に吹く風、机とPC室に付くグループに分かれたが、PC室の方に教員が来てくれて、黙々と計画、学習をする姿を見て、銀髪から青髪に見える。どうやって5つのお掃除機を動かしているのかと。  
机の上、机の下、机の裏、机の裏の隅の隅に物を置くように作っていた。  
多色ボールペンを使っている児童が多かった。5年生の時なら許可してあげた。お掃除機を動かすこともできた。  
6年生、すごいなあ、こんな学校づくりにたいへんと思えば、ありがとうございます！

・授業者から

お疲れまでした。  
6年生(6年2組)は「話し合う場が多いが、学年」であるのは確かだと思えます。話し合いを経て、みんなの合意の上で進めると納得することができ、みんなを決めて、みんなを守る」ことを身に付けてほしいからです。(修学旅行の見守りや学習発表会の演目についても話し合っています。) 落ち着いた、正直なところ、6年2組は受け持った時から、このような雰囲気でした。今更かわって下さった教職員のみならず、お陰です。調べ学習の観点から、また、子ども達の実態から言うと、目的が明確であれば、それに向かって突進することができると感じています。  
学習用具の指導については、高学年であれば難しいところだと思います。「やる気」は高学年の子が押し付けているので、カチカチ音が決まっています。

★お忙しい中、公開していただきありがとうございます。参観していただきありがとうございます。私にとっても学びの場となりました。

5年生に入っている初任者が、4年生算数授業を参観時のシート

・参観クラス 4年2組 教諭 吉村 暢起 教諭

・授業内容 教科 算数

内容(単元名) わり算のひのび

・授業を参観して学んだことや質問など 勉強になりました。ありがとうございます。大久保

①指示、発問、声かけについて  
→指示や発問のテンポが良く、分かりやすかったです。自分は言葉が簡潔にまとめるのが、子どもたちと問題を以外で困らせてしまうので、とても参考にしました。大事かなをやる前に、気になる子の名前を呼んで集中させていたので、授業に取り入れたらいいと思いました。

②まわり、発表の仕方、きき方について  
→ノート書き終わった後、算記用具をいじる子が少なかったです。まわり発表の仕方、きき方、丁寧に指導されているから落ち着いて授業ができるようになったと思います。

③わり算のさまりについて  
→付いた事を発表する時、「わり算」「わり算」などの言葉がしっかりと定着していると感じました。学習内容の定着のために工夫していることがあれば教えていただきたいです。  
→どのようにノート指導をしているかおしえていただきたいです。

・授業者から

今日はありがとうございます。今日のほめは、除法のさまりを見つけて、それを活用して、計算がしやすくなることがあると、実感させることができていた。授業は大きく3つの段階に分けて進めていました。① さまりを見つける ② さまりを使うと計算しやすくなることに気付く ③ やってみる。自分としては、③まで必ず行きたかった。① ②のところで、何と教え、何を考えさせるかを意識して授業しました。結果的に③まで行きましたが、もっと色々と工夫できたかなと思います。

質問についてですが、「わり算」などの言葉が定着しているとすれば、算数の用語を使って説明させたり、ふりかえりを喜ばせたりする言語活動も3年生の時分にやっていたことが大きいと思います。でも、まだまだです。これから何があったら声かけを下さいね。感想もありがとうございます。ありがとうございました。

★お忙しい中、公開していただきありがとうございます。

## 2. ベテラン教諭(教務主任)に授業を見てももらった時の資料①(作成者 西田教諭)

10/28(火)1校時 5-2 算数 西田

基礎的・基本的な知識や技能の確実な習得、授業の効率化のために

<授業前>

- わか、はなえ ⇒ 授業前に目付を書いていた。
- あいさ ⇒ ノートを広げていた。
- ・まさ ⇒ 授業準備をしていない。
- ・まさ ⇒ 算数ノートおれのため、(社会)のノートを使用。
- ・まさと、ひろき ⇒ 先生が課題を書き終わっても、ノートは白紙 ⇒ 声かけ必要
- ・まさし、ゆい ⇒ 定規なし。
- ・あいさ、あまね ⇒ 教科書忘れ ⇒ 三角形の操作活動ができない。
- ⇒ 授業前にわかっていたら、コピーの準備ができたかな?
- ・まさと、ひろき、あいさ ⇒ はさみなし。

<授業中>

- 先生が課題を言いながら書く ⇒ 「聞き書き」として、高学年の児童には求めたい方。
- ・授業開始後の、はさみの準備をする児童
- ・課題の枠組みの色は、赤?オレンジ?黄?青? ⇒ 赤なら「赤」で統一するといひ。
- ・8:45~9:00 <15分間> 教科書P129の△を切る作業  
⇒ 担任の許可を得て、朝学や家で切らせる等、前もって知らせておく必要がある。
- OT「困ったら、教科書P3を見ていいよ。」 ⇒ 三角形をしきつめるための手助けになる。
- ・T「しきつめて、気付いたことは?」  
⇒ 「すきまなく、しきつめられるのはいい」とすると、「辺」「角」に注目したかな?
- ・9:10 課題提示
- ・9:14 資料配布
- ・まさと、ひろき、ゆい ⇒ のりなし。
- ・まさと、ひろき、あまね、はるな ⇒ 先生が表を書き終えても取りかかっている。
- OT「同じ三角形だけれど、何三角形かな?」 ⇒ C「直角三角形です。」 T「どこが?」  
C「Bのところ。」 T「直角は何?」
- ・表にア、イ、ウの角度を記入させながら、三角形の3つの角の和が180°になることを気付かせようとした場面 ⇒ 子どもは、角度ではなく、表の法則性に気持ちがいってしまっていた。  
C「5ずつ上がついている。」「5ずつ下がついている。」
- ・9:25 「まともを書きます。」
- ・9:28 終了
- ・切り取った三角形の扱い ⇒ 職員室にある茶封筒を半分に切って渡す ⇒ 道具箱へ等

<こんな展開もあるかな>

- ・合同な図形をしきつめる ⇒ きれいな模様になる ⇒ なぜ? ⇒ 辺や角度に着目
- <担任の先生と連携して>
- ・はさみ、のり、定規などの忘れ物は、家庭の協力を得たいですね。

10/28(火)2校時 5-1 算数 (3年生の算数があったために少しだけです)

<授業前、中>

- めぐみ以外は、全員、学習準備OK ⇒ 授業の効率化にいい。
- ・めぐみ ⇒ のり忘れ ⇒ 授業前に対処したい。4年生以下。  
担任「ちゃんと 言いに行きなさい。」
- ・そうた ⇒ 教科書忘れ  
「おうちではおいてね。」 ⇒ 明日、はってあるかどうかを確認するといひですね。⇒ 確認しないと、今後、様々な活動で「確認されないから、適当でいいんだ。」⇒「やらない」を学習させてしまう。  
35分、40分、45分
- ・「しきつめた図形はノートにはって下さい。」 11分、12分、13分、14分、15分、16分、17分、18分、19分、20分、21分、22分、23分、24分、25分、26分、27分、28分、29分、30分、31分、32分、33分、34分、35分、36分、37分、38分、39分、40分、41分、42分、43分、44分、45分、46分、47分、48分、49分、50分、51分、52分、53分、54分、55分、56分、57分、58分、59分、60分、61分、62分、63分、64分、65分、66分、67分、68分、69分、70分、71分、72分、73分、74分、75分、76分、77分、78分、79分、80分、81分、82分、83分、84分、85分、86分、87分、88分、89分、90分、91分、92分、93分、94分、95分、96分、97分、98分、99分、100分
- ・「1つでいいよ。」
- ・「余分があったら、2つはっていいよ。」
- ↓
- ・ゆうがゆきのに「2つはるの?」

○「気付いたことを10時までに書きなさい。」  
⇒ 「限られた時間内で作業をさせる」このトレーニングは大事。(時と場合にもよりますが)

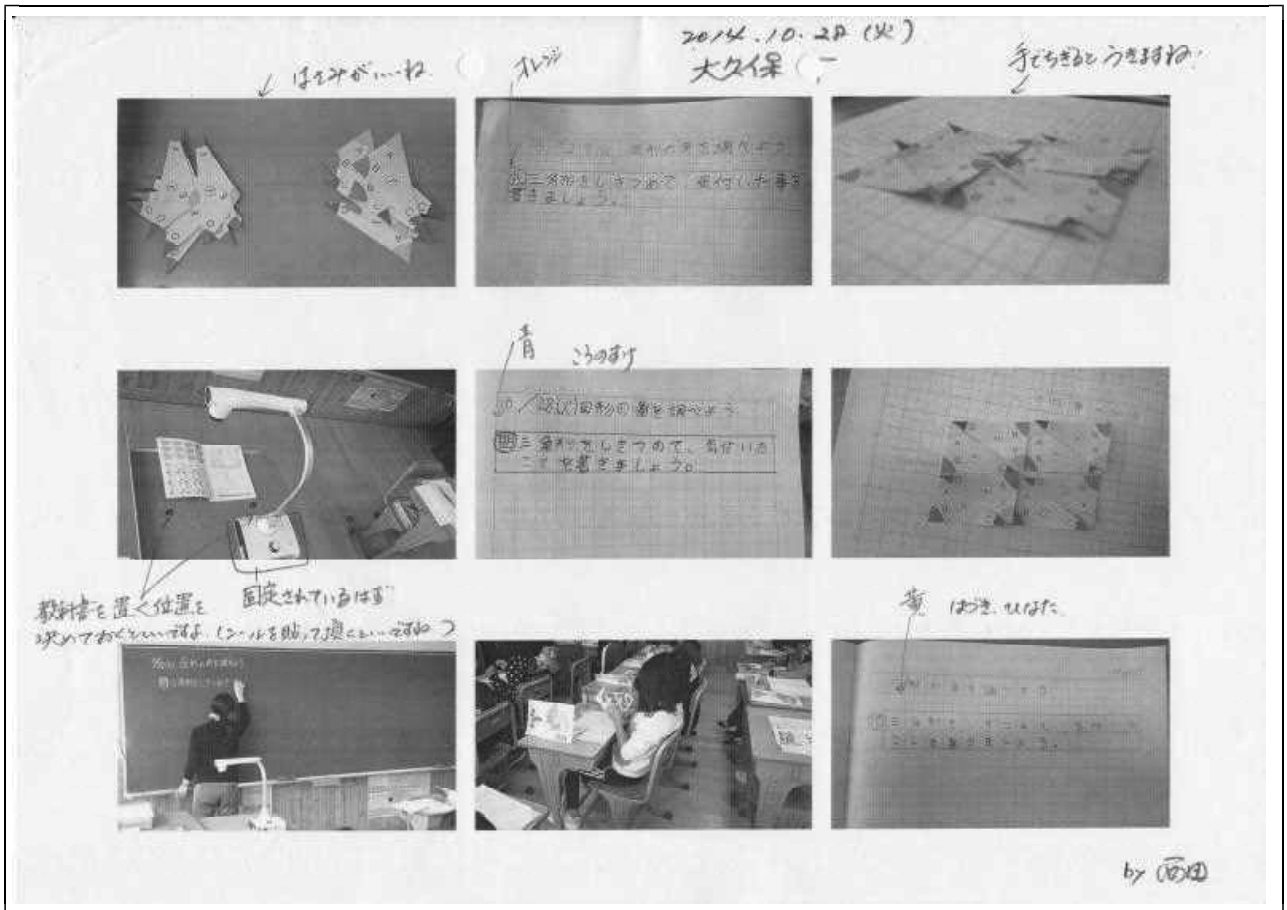
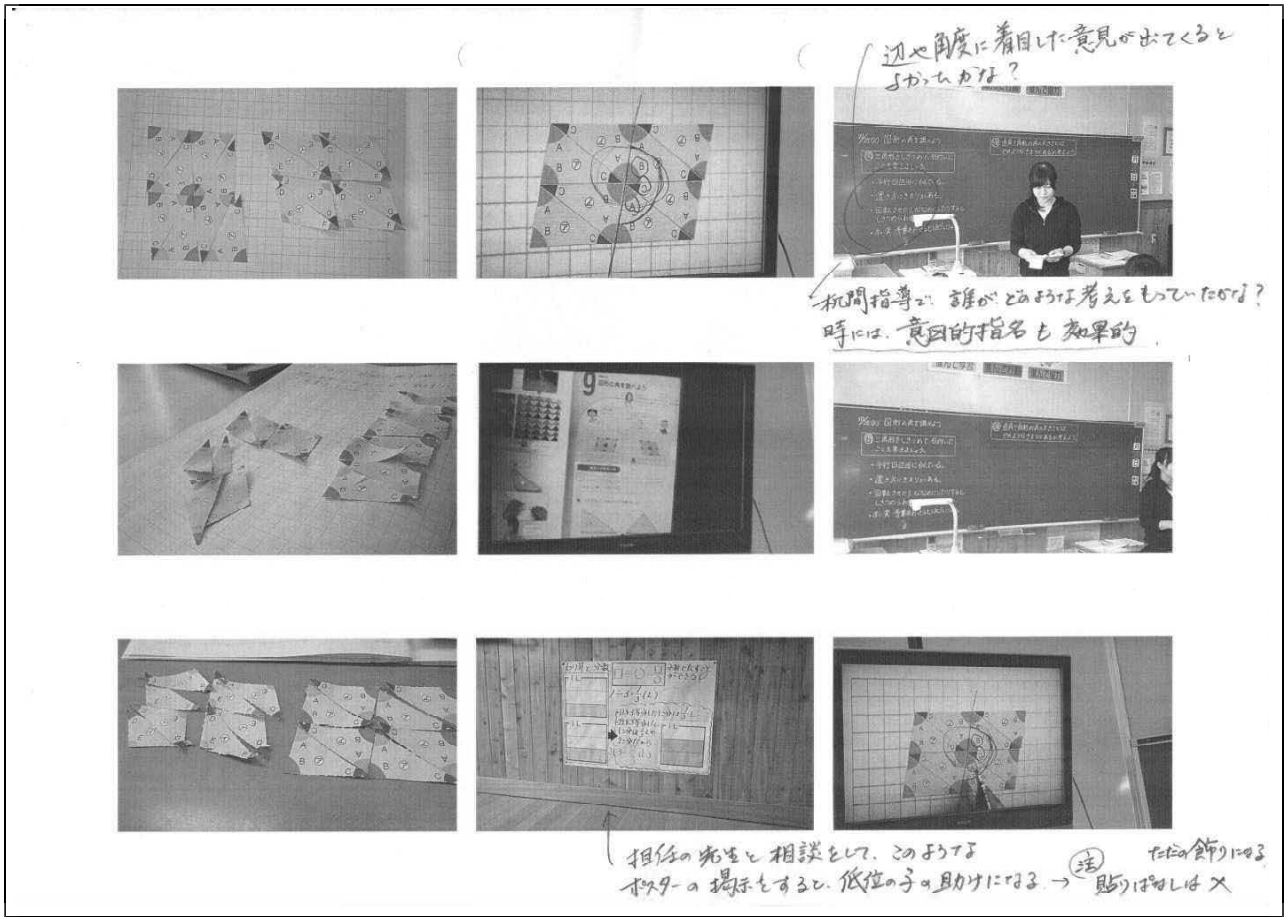
<その他>

1つの単元における 習得(教える)と活用(考えさせる)の割合

1 5 10

- ・単元の導入段階では、子どもの興味関心を高め、学習意欲を向上させることが必要なので「課題提示」までに時間がかかるのは自然な流れだと思いますよ。  
単元の最終段階は、新しいことを学習するというよりは、応用、発展問題が多いですよ。
- ・「課題」と「まとも」は「赤」など、ルールを決めておくといひですよ。
- ・「黄色」は見づらいかな?  
⇒私は、黄色チョークは「青」赤チョークは「赤」とルールを決めていました。
- ・理科や社会で「緑」「茶」などのカラーチョークを使い、色を付けさせた方が子どもにとってわかりやすいと判断した場合は、「色鉛筆」を使わせていました。


ベテラン教諭（教務主任）に授業を見てもらった時の資料②（写真から）



※このあと4枚続きがあります。



#### 4. メンターチームによるとりくみ ～取り組みの概要～（作成者、黒川教諭）



大樹町立大樹小学校 教諭 黒川 達也

### 1. メンターチームとは


メンターチームとは、経験年数の浅い者がチームをつくり、複数でメンタリングすることで、相互の人材育成を図るシステムです。OJT(On the Job Training)の一環として、学校現場でも定年取り入れられ始めています。

**メンタリング**  
 個人の育成、指導手法の1つ。指示や命令によらず、対話による気づき・助言等によって、自発的・自律的な発達を促す方法。

**OJT(On the Job Training)**  
 職場の中で、具体的な仕事を通して人材を育成するための活動。学校においては、先輩教師からの学びや同僚同士での学び合いがOJTにある。

### 2. メンターチーム導入の背景

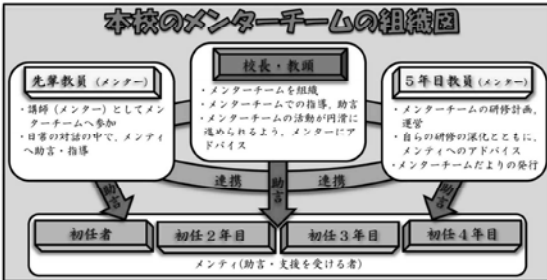
本校は、毎年2名の初任者が配置されていることとあり、経験の浅い若手の先生が非常に多いという現状があります。若い先生方で学び合う場、先輩の先生方の実践から広く学ぶ機会として、メンターチームを結成しました。



### 3. メンターチームの組織

本校のメンターチームは、校長・教頭により組織され、5年目教員（黒川）がメンター（助言者）となり研修の計画、運営、メンターチームだよりの発行を行います。そして、初任者～初任4年目までがメンティ（助言・支援を受ける者）として多様な学び合いの活動を進めています。また、先輩の先生方にも講師（メンター）として参加していただくこともあります。


#### 本校のメンターチームの組織図



メンティ(助言・支援を受ける者)

### 4. メンターチームの活動

メンターチームの活動は、原則毎週金曜日の放課後に行っています。活動内容はメンバーが輪番で話題を持ち寄り、交流を深める活動や、先輩の先生方を講師として招き、得意分野についてお話を聞かせていただいたり、授業を参観させていただいたりする活動など、幅広い活動を行っています。




**・先手活動**

- 継続して家庭学習に取り組みさせる手立て（メンターチームだよりNo.3）
- 授業を公開する際のポイント～授業実践発表会に向けて～（メンターチームだよりNo.7）
- 外国語活動の授業参観⇒外国語活動/ポイントアドバイス（メンターチームだよりNo.16,17）
- コーディネーターに学ぶ！特別支援教育⇒特別支援校内研修（メンターチームだよりNo.21）
- 教室訪問ツアー（メンターチームだよりNo.20, No.23）

活動の詳細、その他の活動についてはメンターチームだよりをご覧ください。

### 5. メンターチームによる支援機能

経験のある先輩と経験の浅い後輩の「タテ」のつながりと同じキャリアステージにある教員の「ヨコ」のつながりの相互の働きかけの中で学び合いが深まります。また、先輩教員のそれぞれ得意とする教科や学校経営、生徒指導など様々な経験や技能を共有することで、経験の浅い教員が多くの同僚から学ぶことができます。メンターチームの活動は、指導や助言を受けるメンバー（メンティ）だけの学びではなく、後輩を育てることを通してメンター自身の学びともなります。



メンター  
タテ  
ヨコ  
メンティ

チームで  
教員力の向上!

### 6. 成果と課題


4月に誕生したばかりの大樹小学校メンターチームですが、活動を行っていく中でいくつかの成果と課題が見えてきました。

**・成果**

- 若手が語り合い、悩みを共有する場となる
- 先輩教員の経験や技能から広く学ぶ機会として非常に有効である
- 同僚の学び合いの輪が学校全体に波及する
- メンター自身の学びの場、自らのキャリア形成を考える機会となる

**・課題**

- 4年間を見通した計画的で無理のない運営



メンターチーム以外の先生方も多数参加（〇囲み）してくれた教室訪問ツアー、同僚の学び合いの輪が学校全体に波及。

- ・メンターチームの研修は毎週金曜日放課後に行われています。その後、「メンター便り」が毎週発行されて、全教職員に配布されています。（12月末時点で30号です。）

# 近隣校と連携した研修システムの構築

## 【北広島市立大曲小学校】

メンターチームによるメンタリングを定期的に行っているほか、近隣の小学校との初任者合同研修会を、講座内容、講師等を明記した年間計画（別添）に基づき、年18回以上を実施している。

また、初任者合同研修会において、日常の場面ごとに心がけておくべきことをまとめた「若手教員の手引」を独自に作成し、活用することで、日常の各種業務における指導力向上に寄与している。



# 大曲小学校におけるジョブシャドウイングの取組

## 大曲小学校の体制

- ・ジョブシャドウイング対象の初任者は1名。(6年生に副担任として配置)
- ・もう1名の初任者は担任を持っている。
- ・指導体制の類型はB型。
- ・6年生のベテラン教師をシャドウイングして、ときに授業も行いアドバイスを受けている。

## シャドウイングの内容

### ◆大曲小学校の基本的なジョブシャドウイングの進め方

- ・初任者指導教諭を中心として、シャドウイングを実施し、年間を通じて初任者をマンツーマンで指導する。
- ・さらに拠点校指導教員が他学年や特別支援学級の教員などと連携しながら多くの教員と関わるができるようプロデュースを行う。
- ・授業づくりや求められる5つの力を満たすための校内研修については、合同初任研や拠点校指導教員により指導する。

### ◆主な取組

- ①学級担任とTTを組むことによるシャドウイング。
- ②学級担任の示範授業を参観するシャドウイング。
- ③学年で連携してT1として授業を進める中で、拠点校指導教諭や学年の教諭から指導を受ける。
- ④合同初任者研修により他校の優れた教諭の授業や取組を参観する。
- ⑤メンターチームによる年間20回以上のメンタリングを行い、教師力の向上を図る。

### ◆取組の詳細

#### ～①、②について～

別紙「ジョブシャドウイング実施記録票」にあるように、授業に関わる中で児童への関わり方や授業の進め方、また保護者対応や生徒指導についても間近で観察できるようにしている。TT等については、毎日の省察のためのノートを作って次年度以降に役立てることとしている。

#### ～③について～

T1を経験し、ジョブシャドウイングで得たものを実践する。また、年間3回の研

究授業を行い、ストップモーションをもとに詳細にわたる事後指導を行い、授業力の向上を図る。

～④について～

石狩管内の小学校に配属された初任者に声かけを行い、合同初任者研修を行っている。(年間計画は別紙参照)「若手教員の手引き」をもとに指導を行う。「若手教員の手引き」は別紙参照) また、初任研参加者はリフレクションシートや論理作文(別紙参照)により研修をふりかえり、メタ認知能力の向上を目指している。

～⑤について～

今年度より、初任者層(新採用・2年目)を対象(メンティと呼ぶ)を、先輩教師(メンター)が共に働き、語り合いながら育成する研修を取り入れている。3回実施するごとに交流会を持ち、次の計画について話し合い、タイムリーな話題になるように心がけている。

愛と勇氣	2014年5月16日	卓球(クラブ活動に関わって)	クラブ活動に関わって卓球の指導法についてオープンスペースにて実技を交えて学んだ。
よっしー	2014年5月16日	ラジオ体操	運動会に向けて、正しいラジオ体操を資料や動画を見ながら全員で行った。
マー	2014年5月16日	鍵盤ハーモニカ・歌の指導	1年1組で鍵盤ハーモニカを2台使用し、指導法について交流した。また、メンティの指導上の悩みについて交流を行った。
さおりん	2014年5月16日	合同音楽の指導法	視聴覚室において、ピアノを用いた全体指導の仕方について交流をすることで指導法を学んだ。
愛と勇氣	2014年5月23日	保護者対応→ラジオ体操	運動会に向けて、正しいラジオ体操を村本教諭を中心にプレイルームで指導した。
よっしー	2014年5月23日	リレー指導	リレーのバトンパスについて廊下を使って実技を交えた練習を行った。
マー	2014年5月23日	立ち歩きの子への対応	メンターの教室にいる立ち歩きがみられる児童のことについての相談活動を行った。
さおりん	2014年5月23日	通知表の書き方	通知表の準備はいつごろから始めればよいか、どのようなところを見ておくとか良いか、良い例などについて話し合った。



メンター研修 スタートです

今年度よりスタートするMT研修(メンターチーム研修)。メンターとは、

メンターとは、「メンタリング」する人の意味であり、その起源はギリシア神話に登場するオートルという人物に由来しているといわれています。メンタリングとは人の育成、指導方法の一つであり、指導者(メンター)が指示や命令ではなく、敬意と対話による気づきを得、被指導者(メンティ)またはプロジェクト本人の自発的・自覚的な成長を促す方法です。そして、メンタリングを通して、メンティがメンターから指導・支援される関係のことをメンター制度といいます。

メンター制度は仕組みややり方も、当事者が高い意欲をもって制度に取り組み「助成」と、メンティに対する「愛情」が成功のための最大のポイントだといえます。

ということを、昨年度の研修の場にお話ししました。文字にしてしまうととても堅いのですが、皆さんで楽しくお話ししながらお互いの力を高めあっていたらと思います。

1 研修先へ研修を行うために、本日は皆さんに打ち解けていただくために「メンターチーム対抗2ハイレール大会」を開催しました。要領以下の通りです。

- ・まずA～Dチームでそれぞれ1回戦のチーム名を決めます。(なるべく楽しくその名を決めて・・・)
- ・チーム総当たり戦でミニハイレール大会をします。
- (ルール)
- ・1試合7分で行います。総得点の多いところが勝ちです。
- ・引き分けもありますが、総当たり戦ですので得失点差で順位を1位～4位まで決めます。(この順位を後に利用します・・・)
- ・細かいルールは別紙裏面付録Aをご覧ください。(1回が先制は×、サーブは手前の線でアンダー)
- ・キャプテンはチームで2番目の選手です。(1～4番目はA～Dチームを、5～6番目はE～Fチームを)
- ・審判にはやさしくすること。
- ・試合終了後にはお茶が飲みます。チームのキャプテンはとりに来てください。

メンティの皆さんに赤色のノートをお配りしました。学んだことを日付とともに書き込んでみましょう。(交流意があります)



メンター研修7回目です

(第8回メンター研修について) ..  
前回のメンター研修は、遠足予備日で保護者も来 ABC や勉強会でのパリエーションを行いました。



(おやつが少なすぎてすみません・・・) (保護室で実地指導) ..  
どんなことを話し合ったか、2回分を本日はよって交流してみましょう。 ..

(第7回メンター研修について) ..  
本日のメンター研修では、3分ほど「7回目～9回目のメンター研修の内容について」を相談してください。(裏面の資料を参考にしてください) ..

7	7月25日
8	8月19日
9	8月22日

メンティの皆さんに赤色のノートをお配りしました。学んだことを日付とともに書き込んでみましょう。(交流意があります) ..

平成 26 年 10 月 11 日

## 目指すべき子供たちの姿

大曲小学校

**発** 先生の道徳の授業を参観させていただいた。モラルジレンマの「ルールを変えろって」という題材を取り扱い、立場の違う 2 つの方向から、子供たちの意見を引き出し授業を進めていた。そこから学んだ生徒指導や授業のポイントについてまとめていく。

**材 1** 子供の発言で授業が進んでいった。体育帽子の色で立場をはっきりさせ、2 つの違う立場から付け足しや、質問などを交じえながら活発な意見交流が行われていた。

**析 1** このように授業をするには、日常の話し方、聞き方指導が重要であると感じた。相手に伝えようとする話し方ではないと、ただ話した子供が満足するだけになり意見の交流にはならない。また、聞こうとしなければ自分の考えが広がることなく、ただ個人で考えて終わる 1 時間になってしまう。相手に伝える気持ち、相手の意見を受け入れる気持ちがないとこのモラルジレンマの授業は成り立たないと考える。先生ではなく、みんなに向けて分かりやすく話す指導、話している人におへそを向けて、自分の意見との違いや共通するところを考えながら聞く指導を日常からできるようにしていきたい。

**材 2** 子供たちの意見が本題と少しずれてきたときに、一度話し合いを止め、今考えるべき人の気持ちは誰なのかを明確にしていた。それと同時に、話し合いの形を全体から一度班にしたり、まだ発言していない子供たちも立たせ、新たな意見を引き出していた。

**析 2** 以前、道徳の授業をしたときに、後半に連れて意見交流が停滞し、話も少しずれてしまっていて終わった経験がある。積極的に手を挙げる子供たちが発表している意見をただ受け入れるだけで、全員参加の授業、授業の中心となる部分を明確にした授業ができていなかった。多様な考えを認めつつも、今回の授業での中心となるものを意識しながら、教師が話し合いの軌道を作らなければいけないと学んだ。その軌道の上で意見交流をすることで、子供たちの考えも深まり、安心して発表できると思う。また、全員の意見を体育帽子で明確にすること、全体の場では難しくても、班のような少ない集団の中で自分の意見をいう機会を作ったり、一回全員が立ち、同じ意見が出たときに座るといった活動を行ったりすることで、自分の考えを表すことができると学んだ。全員参加の授業にするために、これらの様々な活動の方法を組み合わせ実践していきたい。

**束** 道徳の授業から、日常の授業で目指すべき、子供たちの姿、授業の在り方を学ぶことができた。話し方、聞き方の指導を徹底させ、全員の意見交流が活発に行えるような学級づくりをしていきたい。

授業がどのように成立しているか、そしてそこにどのような指導の要素が含まれているかを考えることは大変重要です。この場面で「自分ならこのような言葉で指導する」ということをストックすることやまわりの先生がどのような言葉で指導したかということをストックしておくともいいか思います。共にがんばりましょう。

夢中で授業をしていると、ずれていることにも気がかずに進めてしまうこともありますよね。日頃から略察をしっかりと作れば良くなりますが...

道徳に限らず...「全員参加」の交流は「全員表出(表現)」かなとも思っています。

一時間の授業から、その事象を引き出したり反芻したりしている要素を見つけようとしていること、とてもいいです。本文では「日常の話し方、聞き方」「話し合を止めての筋路明確化」「全員参加の工夫」などです。これらが見えたら、それが臨場感に変に瞬時に切り出せるための必要なものは何かとより深く授業、教師、生徒と目をつけてみましょう。そこにまた教師(感)や児童(感)の親(感)が深まってくる。

考えたいことを明確にして、視点をずらさない授業をする岩崎先生に、いかり学びたいですね。

「みんなは、子どもたちに、」  
目標に向け 定態にお任せ  
どうゆめついか  
子どもたちの指導は  
なるように意識して。



## 8 初任者研修について（平成26年度）

教師としての第一歩を踏み出した皆さんは、大学で「教育職員免許法」に基づいた講義を受け、その後も日々夢に向かって努力されてきたことでしょう。

皆さんが今まで学んできたことは、どのような場面で役立てることができそうですか？

理論が分かっても実践するととなると簡単にはいきません。学んだことを実践で役立てるためには、まず、教師としてどのような資質・能力が必要とされているのかを理解しておくこと、そしてそれをすぐに実行に移すことが大切です。

自分自身にどんな力が身に付いているのか、そしてどのような力が必要なのかを確認する意味でも、是非初任者研修を生かしてください。

### (1) 1年間の研修

研修は、以下のようなものがあります。

- 道教委計画研修  
北海道教育委員会が主催する研修です。
- 一般研修  
教育委員会や教育センター等で開催される研修です。
- 宿泊研修  
北海道教育委員会が主催する研修です。
- 学校計画研修  
学校で計画的に行う研修です。
- 北広島市合同初任者研修  
大曲小・大曲東小・双葉小・緑ヶ丘小・大曲中の初任者のための研修です。
- 校内メンター研修  
初任者のための研修です。
- 4校合同研修  
学校力向上に関する総合実践事業による研修会です。
- 校内全体研修  
校内で実施する研修です。
- 拠点校指導  
初任者が在籍する学校へ、担当の教員が訪問し、アドバイス等を行います。

## (2) 研修の流れ

1年間の研修の流れは、以下の通りになります。

### ◆ 4月

#### 合同初任研①

- 講義「2つのものさしで学級経営を評価する～Q-Uから織物モデルまで～」
- 講義「教師は最初の3日でなにを指導するのか」
- 演習「初日の指導を体感しよう～ベテランの模擬指導～」
- 演習「日常授業のイメージを持つ～模擬授業を受ける～」
- 演習「優れた日常指導のポイントは何か？」

#### 校内メンター研修

<メンター制度とは>

メンターとは、「メンタリング」する人の意味であり、その語源はギリシヤ神話に登場するメントールという人物名に由来しているといわれています。メンタリングとは人の育成、指導方法の一つであり、指導者（メンター）が指示や命令ではなく、助言と対話による気づきで、被育成者（メンティーまたはプロジェジェ）本人の自発的・自律的な成長を促す方法です。そして、メンタリングを通じて、メンティーがメンターから指導・支援される関係のことをメンター制度といえます。

事業会社で使われる一般的なメンター制度とは、メンティーの業務（キャリア形成・スキル向上・人間関係改善など）や業務外（プライベートなど）のことにに対し、メンターが相談を受け、悩みや疑問の解消を促すことにより、メンティーの組織人としての成長を支援する制度のことであり、サポートする範囲は非常に多岐に渡ります。

#### 合同初任研②

- 演習「論理作文交流（初期指導の悩み、戸惑い）」
- 講義「教師の成長モデル～初任3年間で何を学ぶべきか～」
- 講義及びミニ演習

「説明責任時代の教師力～保護者とのトラブル・子供のトラブルとどう向き合うか」

#### 校内全体研修（研究）

#### 拠点校指導

<拠点校指導とは>

拠点校指導教員が初任者配置校を巡回し、初任者に参観授業や示範授業を行い、また放課後の話し合いを行う制度のこと。

◆ 5月

合同初任研③

演習「論理作文交流」(論理作文については別項参照のこと)

講義「行事指導はどうあるべきか?」

演習「行事指導 Q&A」

道教委計画研修一般研修(管内の初任者と顔を合わせて学習します)

校内メンター研修

校内全体研修(研究)

拠点校指導

◆ 6月

合同初任研④

演習「論理作文交流(運動会指導)」

演習「学級通信交流」

講義「教師の文章術～学級通信をどう書くか～」

合同初任研⑤

演習「論理作文交流」

演習「所見交流」

講義「教師の文章術～所見をどう書くか～」

校内メンター研修

校内全体研修(研究)

拠点校指導

◆ 7月

合同初任研⑥

授業参観「教えて表現させる授業」(音楽、合唱)

演習「論理作文交流」

演習「合唱指導のありかた Q&A」

校内メンター研修

校内全体研修(研究)

拠点校指導

合同初任研⑦

演習「論理作文交流」

演習「1学期の学級経営のポイントとは何であったのか」

演習「2学期の学級経営を『見える化』する」

演習「初任者のブックトーク『最近読んだ教育書3冊』

長期目標設定シートふり取り、再記入

◆ 8月

合同初任研⑧

演習「初任者による模擬授業&授業クリニック」

演習「1学期の学級経営のポイントとは何であったのか」

演習「2学期の学級経営を『見える化』する」

市内教育関係機関視察(みらい塾 見学を含む)

道教委計画研修宿泊研修(管内の初任者と宿泊学習を行います)

校内メンター研修

校内全体研修(研究)

拠点校指導

◆ 9月

合同初任研⑨

演習「論理作文交流」

教科指導の基礎力UP 教科書分析法

校内メンター研修

校内全体研修(研究)

拠点校指導

4校合同研修

◆ 10月

合同初任研⑩

授業参観(道徳の時間)

演習「授業検討方法を学ぶ～ストップモーション方式による授業検討～」

演習「論理作文交流」

- 校内メンター研修  
校内全体研修 (研究)  
拠点校指導
- ◆ 1 1 月  
合同初任研⑩  
演習「論理作文交流」  
子どもの動かし方～指示と確認の原則～  
演習「生活・総合の授業づくり8つのポイント」
- 校内メンター研修  
校内全体研修 (研究)  
拠点校指導  
4校合同研修
- ◆ 1 2 月  
合同初任研⑪  
演習「論理作文交流」  
授業参観「追究意欲を高める社会科授業」  
演習「ワークショップ型の研究協議」
- 校内メンター研修  
校内全体研修 (研究)  
拠点校指導
- ◆ 2 月  
合同初任研⑫  
演習「論理作文交流」  
授業参観「興味・関心を高める理科の実験」  
演習「ワークショップ型の研究協議」
- 校内メンター研修  
校内全体研修 (研究)  
拠点校指導
- ◆ 3 月  
合同初任研⑬  
演習「論理作文交流」  
授業参観「特別活動 話し合いの授業」  
講義「儀式的行事における作法指導」
- 校内メンター研修  
校内全体研修 (研究)
- 合同初任研⑭  
長期目標設定シートふり返し、再記入、1年間の学びの共有化  
次年度初任研参加スピーチ
- 校内メンター研修  
校内全体研修 (研究)  
拠点校指導
- ◆ 1 1 月  
合同初任研⑮ スキー研修
- 合同初任研⑯  
演習「子どもを伸ばす発問づくり演習」  
講義・演習「基礎学力を保障するアイデア&コツ」
- 合同初任研⑰  
演習「2学期の学級経営のポイントとは何であったのか」  
長期目標設定シートふり返し、再記入  
講義「後期学級経営のポイント」  
講義・演習「指導が難しい子の理解・指導をどうするか」  
講義「生徒指導の原理・原則」



# 日常的な研修サイクル

## 【旭川市立愛宕東小学校】

指導教諭のフォローアップが常にある状態で指導を受けることで、初任者が安心して実践的な研修を行える環境を保障でき、初任者の確実なスキルアップを図りやすい状況にある。

また、指導教諭による指導観察、初任者の記録、リフレクションがジョブシャドーイング研修の日常のサイクルとして定着することで、指導方法の改善、指導力の向上に効果がある。

## 愛宕東小学校のジョブ・シャドウイングの取組

### 1 本校の取組

#### ① 学校体制

- ・ 初任者は1名。
- ・ 指導体制の類型は、A型・学級担任形式である。
- ・ 指導教諭である担任教師(宇野)学級に副担任として位置づいている。
- ・ 校内での立場はTTである。特別な場合を除き、配属学級で指導教諭をシャドウイングしている。

上記したように、指導教諭の学級に固定的に配属するタイプであるため、取組が閉鎖的になりがちである。「シャドウイングとは何か。どのような立場なのか。どのような取組をしているのか。」が、他から見えにくく、指導教諭が中心となり指導しつつも、初任者を全校で指導し育てていくためにも、教職員の理解・協力を得ることが必要である。また、児童や保護者への周知の必要もある。

#### ◎職員への周知

- ・ 北海道教育委員会の初任者研修の新モデル事業である。
- ・ 指導教諭の学級に所属して、初任者として必要な知識や技術、考え方を研修していく。
- ・ 実際に授業もするが、事前事後の指導を指導教諭より必ず受ける。
- ・ 副担任として位置付けられる。
- ・ 必要に応じて、他学級の授業を見学し、研修する。

#### ◎児童への周知

- ・ 3月に大学を卒業し、北海道教育委員会に正式採用になった先生である。
- ・ 1年間、このクラスの副担任として指導に当たる。
- ・ 宇野先生と同じように授業したり指導したりする。礼節を守ってご指導いただくように。

#### ◎保護者への周知

- (児童への説明に付加して)
- ・ 北海道教育委員会の委託事業である「ジョブ・シャドウイング」という制度のもと行っている。
- ・ 非常に優秀な新規採用者が対象である。
- ・ 初任者が授業を行ったり、直接児童の指導に当たったりする。事前事後の指導を必ず指導教諭によって行われている。

児童への周知はスムーズに進み、負荷なく学級での指導を開始することができた。職員については、「ジョブ・シャドウイング」という未知の制度についての理解が容易ではなく、包括的にとらえていただくことが難しかった。しかし、時間の経過とともに理解が深まっていた。また、4月の段階では保護者にアナウンスすることはなかったが、7月参観日の懇談会の折に学校長より説明を行った。そのことにより、新採用者が立場を明確にしながら指導に当たれるようになり、よりスムーズに指導を行うことができた。

#### 〇〇考察〇〇

周りの同期採用者が、採用と同時に学級担任として勤務する中、ジョブの採用者は、教育実習の延長ととらえられかねない。採用者にとっては、

「自分の力量のなさゆえ、1年間の見習い期間が与えられたのではないか。」

と判断してしまうことも考えられる。著しく自己肯定感を下げてしまい、教員としての晴れやかなスタートを阻害する可能性もある。ひいては、その後の教員生活を希望と意欲をもって送れないほどのマイナスイメージを与えてしまうかもしれない。

そうではなく、将来を囁望されて選出されたこと初任者に自覚させると同時に、周囲の包括的な理解が欠かせない。

新年度スタート同時に初任者の立ち位置を明確にするような丁寧なインストラクションをし、学校全体で初任者を見守り育てていくという共通理解が欠かせない。

#### ② 学校組織の中での立場

初任者が指導教諭から学ぶという趣旨を最大限生かすために、学校組織の中では以下のように位置づけて行った。

#### ◎指導教諭

- ・ 6年2組担任
- ・ 研修部部長
- ・ 指導教諭

#### ◎初任者

- ・ 担任外 (TT・小人数、ジョブ・シャドウイング)
- ・ 研修部

#### 〇〇考察〇〇

教師の実務は、教室の中だけにあるわけではない。学校という組織の中で、滞りなく、あるいはよりよい学校を目指して行うべきことがたくさんある。校務分掌の仕事を行ううか、同僚と良好な関係を築きながら協同するためにはどうすべきか、ということも学ぶことも重要であると考ええる。

しかし、これは単に「どう働くか」という技術の話をしていてのではない。すべては「より良い学校、よりよい教育」のために、いわば児童のために学校組織は機能すべきだという視点に立つて学校は運営されるべきだ。つまり、技術をどう身に付けるかということよりも、目の前の仕事をどのような教育観をもって行うかということと通底していると考ええる。

一貫した指導観、教育観のもとに、どう実務をこなしていくかということも学ぶために、できる限り指導教諭と共通性の高い配置は有効と考える。

③ 初任者と指導教諭の人間関係の構築

初任者は、一日中（まさに、言葉通り出勤から退勤まで）指導教諭について勤務する。そのため、良好な人間関係の構築と保持は非常に重要な要素であると考ええる。そのための第一歩は、互いを信頼することである。互いの信頼は、互いを一人の人間として、あるいは、同じ教師として心から尊重することが根底にあることが前提である。これは、対児童にしても、同じことが言える。

◎当初のインストラクション（4月1日）

- ・ 自己紹介 …長く親密な付き合いになるということが前提であるゆえ、公開し得るプライベートなことを交換し合った。
- ・ 教員になった動機…初任者がなぜこの仕事を選んだかは重要な情報である。率直な志望動機を聞くことにより、初任者がもっている教師像、教育観に触れられると考える。また、現実と理想にどの程度乖離があるかを把握することでもでき、その後の指導の方向性を決める重要な要素であると考ええる。
- ・ 大学で学んだこと…初任者がどのような学びの動向をもっているか、どのような強みをもっているかを知ることは、その後初任者がどの方向に成長していくかということにもつながる。また、指導教諭は、教師になってからどのよう研鑽を積んできているか話を話す。そのことによって、教師とは常に学び続ける存在であるのだからということを示唆できる。

◎勤務にあたっての基本的指導内容

○ふりかえりノートより○

【4月1日】

- 1日に教師が行うこと
- ・ 学級、学年の引き継ぎ
- ・ 教材選び

テストは、自信をつけさせるために難しすぎないもの…児童実態、学年の成育歴に応じた芸術科目は活動と予算に合わせて選ぶ  
子どもの実態（学力、器用さ、関心）に合わせて  
一年の学習の見通しをもち、今までの教師の経験と合わせて  
・ 学年で足並みをそろえるための話し合い  
・ 児童の実態の把握

・ 分掌会議

☆本を買い、多くのものを読む

→よいと思ったところは、テーマ別にPCに保存

昔のものについても目を通す

☆全学級の学級通信をもらう

☆全学級の掲示物の写真を撮る

→学期によって変化するので、定期的に行う

☆児童に対して丁寧な言葉で会話する

児童がぐだけた言葉を遣っていたら、言い直させること

↓

適切な距離をとる 指示が通らなくなってしまうことを防ぐ

○○考察○○

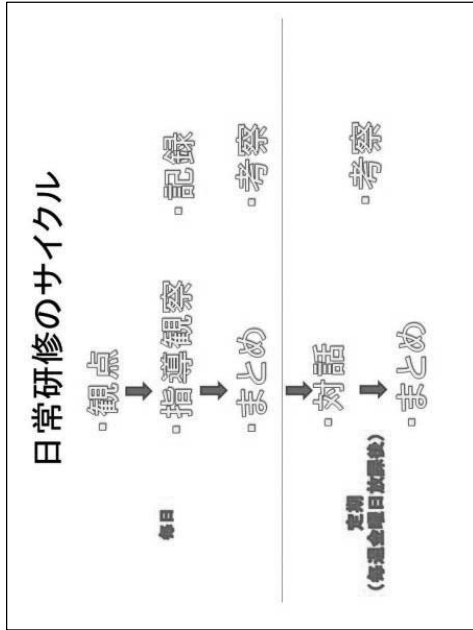
構図的には、指導教諭は指導する側であり、初任者は指導される側である。しかし、これらは立場の問題であり、人間的に初任者を支配したり洗脳したりすることが許されるわけではない。初任者の人格や考え方を尊重しつつ、先を行くものとして知識や経験の伝授を通して、初任者自ら視野を広げ自分らしく育っていくようとする意識をもたせることが最大の仕事であると考ええる。指導教諭の言いなりの初任者ではなく、指導を通して知ったことを、自分のフィルターを通して取捨選択できる主体性のある教師を育成することが初任者指導の肝であると考ええる。

また、初任者は副担任として指導の一端を担う。教室に複数の目（手）があるということとは、児童にとっても学級担任にとっても歓迎すべき有難いことである。そのことへの感謝の気持ちを絶えずもつことを忘れてはならないと考える。

④ 取組の詳細

◎日常指導

- ・ 指導教諭の指導観察、記録、リフレクション



初任者は、恒常的に観察・記録を行う。観察については、以下の2点を軸に行っている。

- ・ 月毎の計画に基づいた観点
- ・ その都度、重要と感じた観点

教室では、時系列で次々に観察したことを記録し、放課後、それらを整理する。それらをもとに、定例で行っている指導教諭との対話をする。新たに湧いた疑問や付随して出てきた課題、あるいは、理解を深めたことなどをノートに付け加える。最終的な学習の形として、ノートをデジタル化する際に考察をまとめている。

(観察ノート)

4月8日(火)	
朝 6-2	思語: ① 準備、準備、準備 ② 準備、準備、準備 ③ 準備、準備、準備
1	① 準備、準備、準備 ② 準備、準備、準備 ③ 準備、準備、準備
2	10:30 ~ 1年下級指導 ① 準備、準備、準備 ② 準備、準備、準備 ③ 準備、準備、準備
3	下校指導 自分の家がどこからか ① 準備、準備、準備 ② 準備、準備、準備 ③ 準備、準備、準備
4	① 準備、準備、準備 ② 準備、準備、準備 ③ 準備、準備、準備
5	① 準備、準備、準備 ② 準備、準備、準備 ③ 準備、準備、準備
6	① 準備、準備、準備 ② 準備、準備、準備 ③ 準備、準備、準備
放課後	① 準備、準備、準備 ② 準備、準備、準備 ③ 準備、準備、準備

○本日の学び  
○自分の声大々  
○準備、準備、準備  
○準備、準備、準備

平成 26 年度 学習記録

○ 4月8日(火)  
○ 6年2組 宇野 先生、 本村 先生 (5)、 倉本 先生 (6)

時間割り	児童の主な活動	教師の働きかけ
1. 9年活	朝の会、リサの会の内容の振り返り 作業、家庭学習の仕方を説明 学習計画表を決める	一人一人の作業を促し話しを促す 各まつけの仕方を、逆手、これの仕方の話を → 全てでは卒業式につながる 全席声を挙げて話しを促す 何故もやり直し 話しを促している時は、手を止めさせず → 1人で一年生の話を促す
2. 9年活	いっしょに読書会 おいてみるお返し、一人一語 、つかいごと 大きな声で 、楽しいこと 早く回す 、楽しいこと 早く回す どんなクラスにしたいか一人ずつ話す	
4. 算数	フラッシュカードを行う 「分秒」の「4分の1」 「分秒」の「0.25」 「分秒」の「4」 台形 → 平行四辺形の半分 台形 → 平行四辺形の半分 台形 → 平行四辺形の半分	○ 1 「百分、一、分、秒」 五年生の学習器を扱う □ 机の上、机の中を扱う □ 机の中を扱う □ 机の中を扱う □ 机の中を扱う □ 机の中を扱う □ 机の中を扱う
5. 算数	五年の学習器 63 × 27 3秒で角をくには? 42 × 21 48 × 42 = 2016 60 × 42 54 × 46 = 3024 A. 4221 86 × 84 = 7224	□ 机の中を扱う □ 机の中を扱う □ 机の中を扱う □ 机の中を扱う □ 机の中を扱う □ 机の中を扱う
6. 社会	どれくらい交通量があるのか ノートに ① 府内府外 ② 市内の中心部 ③ 歴史上の人物	□ ノートの書き方、読み方、書き方 □ ノートの書き方、読み方、書き方 □ ノートの書き方、読み方、書き方 □ ノートの書き方、読み方、書き方 □ ノートの書き方、読み方、書き方 □ ノートの書き方、読み方、書き方

朝	8月9日(水)	全員の出席 各教師と児童のふたごの物語の話を聞かせる
1	1-4 澤田先生 今日は、どんなお話があったか 手紙の読み聞かせ、カバンを置く方向、机の上には物の出し方をしめよう 姿勢、目線、車の置き方、返事、あいさつ、車の受け方、プリントのしめよう	
2	1-4 水ののけろ、トイルに行き、先生が話しているとき、目を見よう、目を見よう、先生が話しているとき、目を見よう、目を見よう、先生が話しているとき、目を見よう、目を見よう	
3	10:30～ 下校指導 手紙を書こう、机の上で話してみよう、カバンを置く方向、目を見よう、目を見よう、先生が話しているとき、目を見よう、目を見よう	
4	11:30～ 12:35 6-3 個人活動 声が大きいグループで話してみよう、机の上で話してみよう、カバンを置く方向、目を見よう、目を見よう、先生が話しているとき、目を見よう、目を見よう	
5	13:35 6-2 学習記録 4ヶ月前に準備して来た子や、先生に目線を向いて話してみよう、机の上で話してみよう、カバンを置く方向、目を見よう、目を見よう、先生が話しているとき、目を見よう、目を見よう	
6	14:25 学習記録 くつを揃えて話してみよう、机の上で話してみよう、カバンを置く方向、目を見よう、目を見よう、先生が話しているとき、目を見よう、目を見よう	
放課後	6-2で 文書会議 3:00	

○今日の学び  
 ○やってみようね、待たずに話を聞かせる方法をよ  
 ○机の上、目線、姿勢、目線、車の置き方、返事、あいさつ、車の受け方、プリントのしめよう  
 ○集団で生活している児童を支援する

○8月9日(水)  
 ○1年4組 澤田先生

時間割り	児童の主な活動	教師の働きかけ
1. 待合	授業準備をする 話している間、いい姿勢になる 約束を守る トイル、水のみに行く 教科書を見る うたを歌う 準備仕度を済ませる	<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 提出物を出す</li> <li>→ フォトを壁に貼る</li> <li><input type="checkbox"/> 机の中に机入れを入れる</li> <li>→ 机の中心に机入れを入れる</li> <li>→ 机の中心に机入れを入れる</li> <li>→ 机の中心に机入れを入れる</li> <li><input type="checkbox"/> 机の上には物の出し方をしめよう</li> <li>→ 机の上には物の出し方をしめよう</li> <li><input type="checkbox"/> 姿勢、目線、車の置き方、返事、あいさつ、車の受け方、プリントのしめよう</li> <li>→ 姿勢、目線、車の置き方、返事、あいさつ、車の受け方、プリントのしめよう</li> <li><input type="checkbox"/> 水ののけろ、トイルに行き、先生が話しているとき、目を見よう、目を見よう、先生が話しているとき、目を見よう、目を見よう</li> <li>→ 水ののけろ、トイルに行き、先生が話しているとき、目を見よう、目を見よう</li> <li><input type="checkbox"/> 約束を守る</li> <li>→ 約束を守る</li> <li><input type="checkbox"/> トイル、水のみに行く</li> <li>→ トイル、水のみに行く</li> <li><input type="checkbox"/> 教科書を見る</li> <li>→ 教科書を見る</li> <li><input type="checkbox"/> うたを歌う</li> <li>→ うたを歌う</li> <li><input type="checkbox"/> 準備仕度を済ませる</li> <li>→ 準備仕度を済ませる</li> </ul>
2. 音楽		<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 準備仕度を済ませる</li> <li>→ 準備仕度を済ませる</li> <li><input type="checkbox"/> トイル、水のみに行く</li> <li>→ トイル、水のみに行く</li> <li><input type="checkbox"/> 教科書を見る</li> <li>→ 教科書を見る</li> <li><input type="checkbox"/> うたを歌う</li> <li>→ うたを歌う</li> <li><input type="checkbox"/> 準備仕度を済ませる</li> <li>→ 準備仕度を済ませる</li> </ul>

一年生は何かからかまで、分からぬ  
 細かく準備する指示、手袋の着用、  
 何もしていない時間を減らす  
 子供目線の丁寧な準備

4/10 今日学んだこと

- 朝の会
- ・ 一日の予定
  - ・ 子供から
  - ・ 先生から
  - ・ 今日の慣用語、一言、うた、四字熟語
  - ・ 全カジャンク、ほめほめタイム
- ② 明日のための?
- ・ 相手を動かせる
  - ・ 空気を出す
  - ・ 気持ちを上げる
  - ・ 声を出す
- 外観から  
毎日時間厳守

- 帰りの会
- ・ 明日の予定
  - ・ 子供から
  - ・ 先生から
  - ・ めあて反省
  - ・ てよならジャンク
  - ・ ほいりかえりジャーナル
  - ・ クラス会議
  - ・ 世のため、人のためタイム
  - ・ 認め合い
- 早く帰す  
空気がよくなる  
空気がよくなる  
空気がよくなる
- 今から 3月の4日に実習可能な注意  
17、27、28日

今日考えたこと、感じたこと

□ 今日ば学年、男女問わず注意をすることが出来た  
→ 中途半端にしない！  
児童がなぜ注意されたのか、なぜダメなのか、どうすれば良いのか、分かるように

□ 一年生の学級に入った  
→ 一年生は、何にも分からない。全てを教える  
一つ一つ丁寧に、細かく指導  
具体的に指示 一回に一つ。  
褒めること、繰り返すことの大切さ  
不安にならぬよう 児童の立場に立った自己處  
教員側の事前の準備

□ 教員中との連携  
→ 自分から話しかける  
積極性  
話しをして頂く 校会

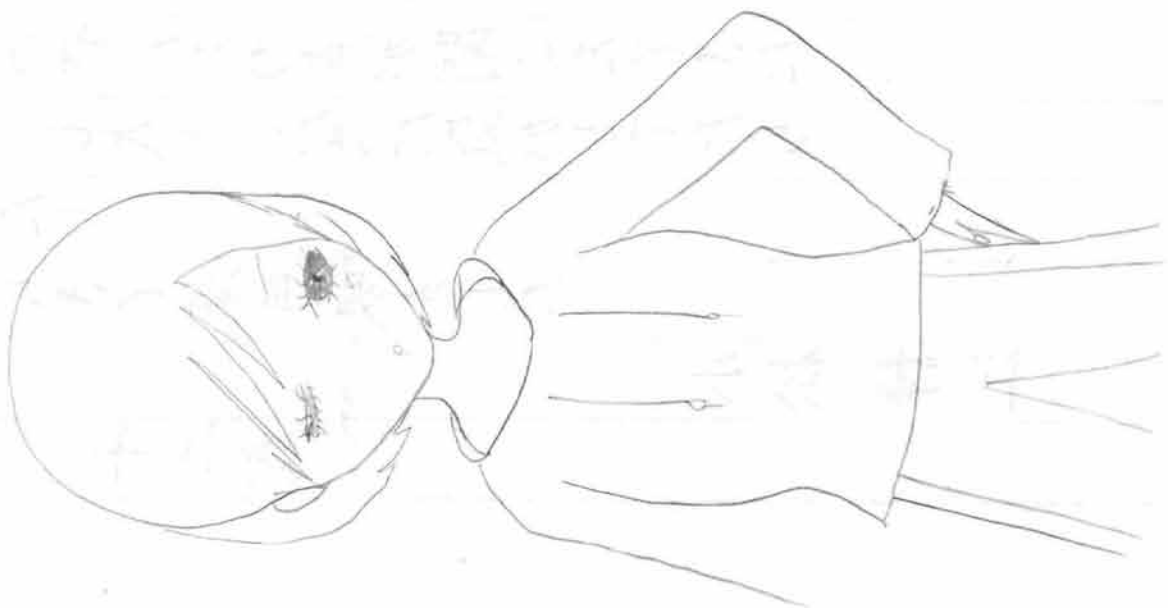
□ 学級の全員の児童が何をしていたか、覚えていない  
→ 全員の子どもに目が回っていない  
担任にならたら、もっとやることが増える  
意識して、どの子と話ししたか、不乗子見ただか  
見ているよ、手をかけているよ、オーラを伝え続ける

□ 待つこと、児童の様子をよく見ることの大切さ  
→ すぐに気付いたことをやってみよう ×  
誰かが気付くのを待ち、出来たときに子を褒める

4/10

今日考えたこと

- 全体と個を見るのが難しい  
公平に することが出ない  
 ↓  
 言平価の観点から分かっていない  
 40人の様子を把握できていない  
 ↓  
 まずは、この学習のねらいを明確に  
 児童の目標を状態  
 +  
 一人一人と全体に目をつける
- 一年生を 絞める  
 下で会う子は獲められている ⇒ うれしそう  
 教室で下下として入った日々に何していいかわからない  
 ↓  
 その目の前にいる児童のために出来ることは？  
 力を付けさせたい と思えば 私の手をききも変わる  
 成長させてあげたい  
 ↓  
 手を出さず、見守る  
 気付かせ 働かせかけ  
 考えさせ 働かせかけ
- 今日一日の学びの視点を明確にすることの大切さ  
 意識していないと、ただ何となく過ぎてしまう



教師になら

初めて児童が書いてくれた絵

作ねこん

(デジタル化)

【4月8日】

- ご指導いただいたこと
- ☆自分が担任だったら 児童とどのように関わるか、何をすべきか考えて動く  
なぜそうするのか？
- 一年後どのような児童を育てたいのか？
- どんな力をつけるために そうするのか？
- ⇒自分なりの考えをもった上で行動する
- 常に、理想の教師であれば今どうするか考えながら行動する
- ☆児童も、人格をもった一人の人間であるという意識
- 人格は、教師も児童も変わらない
- むしろ教師よりも優れた人格をもつ児童がたくさんいる
- ⇒一人ひとりの児童を尊重
- ☆学級づくりについての視点を絞って教育活動をみる
- 例) 教師と児童のラポールのつくりかた  
集団を動かす方法  
4月に指導すべきこととは？

☆教育活動に対して、自分なりの考えをもつ  
見たこと、それに対する自分の考えを記録していく  
常に自分はどうか思うか、自分ならどうするかを考える

☆褒める視点を磨く

児童の褒めるところは無限にある  
しかし、多くの視点をもっていないと褒められない  
視点を増やそう

◎リフレクションの時間をどんどん見つけて、どんどん聞く



- 本日までに考えたこと
- 担任の先生と同じ意識で児童とかわる  
→もっと担任の先生方に聞くことがあるはず。  
自分の行動を客観的にみてみる  
なぜ声をかけるのか？ なぜ手伝うのか？  
児童の実態 + 教師の思い
- 自分に足りない力を把握  
この1年で何を学びたいか
- 教師としての自覚、意識の高さ  
自分は何のためにそこにいるのか？  
何ができるのか？  
→適切な行動は、思い切り褒める  
適切ではない行動は、なぜいけないのか明確にして注意する  
↓
- 児童と関わる中で学ぶことが多い  
どんどん関わらなければ、機会を失ってしまう

□積極性

やろうかやらないか迷ったら、とりあえずやってみる  
失敗から学ぶ

○1年間勉強すべきこと、自分に足りないもの

- 知識
- 児童との信頼関係をつくる方法
- 学級経営力、集団をまとめる
- 児童の興味関心を引き出す力
- 指導力
- わかりやすい話し方
- 変化(表情、口調)
- 保護者との関わり方
- 授業力
- 語彙力
- 声の大きさ
- 適切な発言の仕方(社会人として恥ずかしくない話し方)
- コミュニケーション能力
- 褒める視点
- 精神力

○自分にあるもの  
□

□圧倒的に勉強不足  
北海道の市町村名  
世界遺産の場所と名前  
漢字



○これから実行すること

- 自分の仕事は、事前に準備しておく
- 大きな声で話す（聲に)
- いつも笑顔でいる
- 常に何をすべきか考えて行動する
- 明確な目的をもって動く　なぜそうするのか、あとから説明可能
- 積極的に児童と関わる
- 先生に対しても、自分から関わる。積極的に学ぼうとする
- 毎日　目標を明確にしてから活動する  
参観する視点を明確にする
- すき間時間を利用して学ぶ
- 来年どのようなようになっていきたいか理想像を描く
- 気になったこと、知りたいたいと思ったことはなんでも聞く
- 今の3倍　人との関わりを増やす
- とにかく　たくさん子どもと遊ぶ、話かける
- どんどん自分でできることを探す
- たくさん失敗する　失敗から学ぶ

○何のために、学級に入っているのか

- 勉強に遅れがちな児童に教える
- 困っている子を助ける
- 共感する
- 褒めて自信をつけさせる、自分の良いところに気づかせる
- 児童に、学校、勉強、運動は楽しいものだと思わせる
- 子どもを笑顔にする
- 自分で考えて行動させる
- 成長を実感させる
- 担任の先生の技を吸収する
- 担任の先生の負担を少しでも軽減する
- たくさん児童と接し、関わり方を学ぶ
- 教育活動を、より充実させる

○より具体的な目標

- 一週間に最低1冊は読む
- 毎日目標を立ててから1日をスタートさせる
- 記録を毎日欠かさずつける
- 不明なこと、知りたくないことは、すぐに聞く
- 周りをよく見る、アンテナを図る

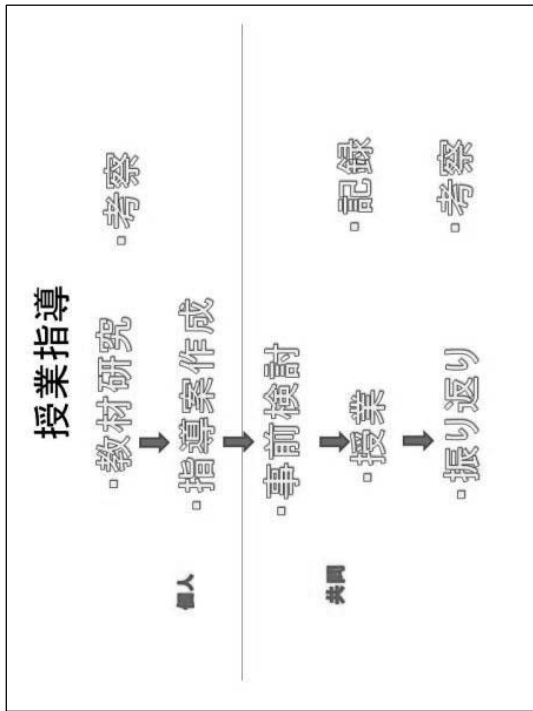
○勉強すべきこと

道内の市町村名  
世界遺産の場所と名前

○一年後どうなっていたいか、一年後までに行うこと

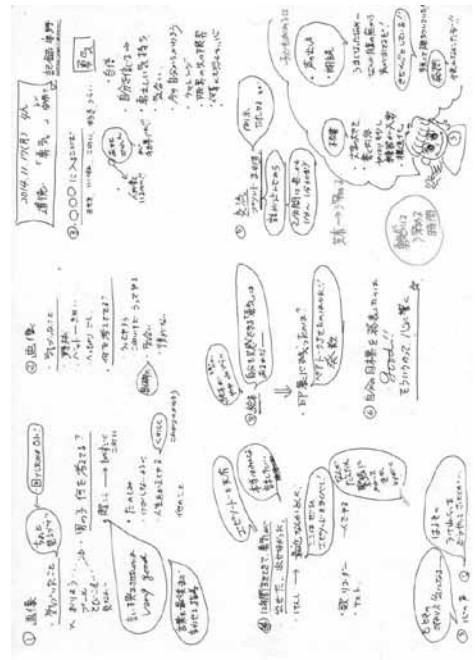
- 1～6年の4教科の教科書を全てみる
- 正しい日本語を使う
- 大きな声で話す
- 全校児童の顔と名前がわかる
- 自信をもって、児童と保護者の前に立つ
- 児童と適切な距離を保っている
- 常に児童を褒めることが大切
- 学校生活の一年の流れをつかむ
- 常に笑っている
- 根性をつける
- 規則正しい生活をする
- 人を楽しませることができ
- 一年かんやったことは何もない　すべてやり尽くしたと思えるようにする
- 児童と一緒に笑ったり、泣いたりする　児童に寄り添う
- 小学校で習ったかんじはすべて頭にいれる





最初は、時間をかけて教材研究し指導案を作成して授業を行っていた。丁寧に教材を分析し理解を深め指導観を高めていくことは、大切な力量形成ではある。しかし、実際に学級をもった時に、毎日緻密な指導案を書いて授業を行うことはできない。つまり、緻密に授業案をつくるという力量形成と併せて、ポイントを押さえて短時間で授業を構成するという力量形成が必要である。

よって、前半は緻密な授業構成に力点を、後半は短時間でポイントを押さえた授業構成に力点をおいて授業づくりを行った。



## 短期的シャドーイングサイクル

### 【釧路市立芦野小学校】

ジョブシャドーイング研修のサイクルとして、指導教諭が実践し、実践内容の意味を指導し、初任者に練習させ、実践させることにより評価し、初任者が自らが考え、工夫改善につなげるというサイクルが確立していることで、確実なスキルアップに効果がある。

## ジョブシャドウイングの振り返り

今年度のジョブシャドウイングの取組を振り返り、芦野小学校における成果と課題を踏まえた上で、初任者研修の抜本的改革の為に次の報告をする。  
この報告は、初任者研修をどのように進めるべきかという問題に正対した解である。ジョブシャドウイングという枠組みの中での解である。

### I ジョブシャドウイングの手順と内容

手順と手続きを区別しなければならない。手順は対象である初任者の実態を大切にしたい方法であり、手続きは指導者の都合を優先した方法である。手順として行うのが肝要である。

内容については、ふたつの階層に分けて述べる。教師として必要な能力とそれを支える考え方である。技能と観と言い換えても良い。

#### 1 ジョブシャドウイングの手順

次の手順が理想である。短期的サイクルで実施する場合もあるし、長期的サイクルで実施する場合もある。

- ① 手本を見せる。
- ② 手本の意味を教える。
- ③ 練習させる。
- ④ 実践させる。
- ⑤ 評価し反省・改善させる。
- ⑥ 工夫をさせる。

#### 2 ジョブシャドウイングの内容

教師として必要な能力（技能）と教師として必要な能力を支える考え方（観）のふたつの階層に分ける。

まず、教師として必要な能力を次のように分類する。それらについて指導する場合は、それぞれの能力を支える考え方（観）にまで言及する。

- ① 教師として必要な能力（技能）の分類
  - 実践的指導力 ・ 教科指導 ・ 学級指導 ・ 校内外生徒指導
  - 組織貢献力 ・ 分掌業務 ・ 学年業務 ・ 学級業務
  - 地域貢献力 ・ 保護者連携 ・ 社会教育との連携
  - 事務能力 ・ 服務関係各種届出 ・ 公文書作成、管理、保管など
- ② 教師として必要な能力を支える考え方（観）
  - 教育者としての使命感 ○ 人間の成長・発達についての深い理解
  - 幼児・児童・生徒に対する教育的愛情 ○ 教科等に関する専門的知識
  - 広く豊かな教養

＜上記の 5 つは、教育職員養成審議会「新たな時代に向けた教員養成の改善方策について（第一次答申）（平成 9 年 7 月 28 日）文部科学省 HP：  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/kyoin/needs/](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/kyoin/needs/) より抜粋＞

## II ジョブシャドウイングの意義と具体的実践例

ジョブシャドウイングの意義をどう捉え、どのように実施したか。その実例を示す。前述の手順や内容を踏まえて対応させる。

### 1 ジョブシャドウイングの意義

新卒教師が、教師として一人前に近づくために、教師として必要な能力を具体的に学ぶ必要がある。具体的という部分が特に重要だ。

大学などの教員養成課程での学びを経て、教育実習も経験し教師になった初任者だが、他の多くの職業と同じように就職してからでないかと学べない内容は多い。

例えば、子供と出会う初日の第一声はどのように何を話せばよいのだろうか。例えば、子供を体育館から教室まで連れていく時に必要な指導は何であろう。例えば、初めての授業で一番初めに指導すべき事項は何であろう。例えば、休み時間はどう過ごさせたらよいのだろうか。例えば、大量のプリントを確実に配布するにはどうすべきだろうか。例えば、初日の下校時にすべき指導はどういったものであろう。

講義室では学びにくい内容ばかりである。

教育実習の経験が助けてくれる場合もある。しかし、実習生と教師とではその立場が全く違う。実習生は所詮学生なのである。学生は教師に守られる立場であり、教師は学生を守る立場である。この立場の変化に対応するために初任者は多くを学ばねばならない。

これまでの初任者の学びの実態は次のような考え方によるものが多かった。

自分なりに試行錯誤して学ぶのが良い。

この考え方の全てを否定はしない。試行錯誤を繰り返し成長した教師も少なくないからだ。しかし、優れているとは言えない。試行錯誤を繰り返しても成長できないう教師も少なくないからだ。

勉強ができない子供を叱りつけてしまった経験がある。勉強をやろとしない子供を放っておいた経験がある。できない子供にはやり方を教え、励ますのが教師である。やろとしない子供には反省させ、意欲を高めようとするのが教師である。

自分なりに試行錯誤した学んだ経験だけに頼っている過去の自分が浮かぶ。

「愚者は経験に学び、賢者は歴史に学ぶ。」（初代ドイツ帝国宰相オットー・フォン・ビスマルクの言葉<1815 年・1898 年>）

経験だけから学ぶのはもうやめよう。優れた先人先達から謙虚に学び続ける文化を教師文化の常識にしよう。これがジョブシャドウイングの意義である。

単に対象となった初任者が育てば良いという結果主義・成果主義ではない。初任者研修の改善につなげる為に学び続ける教師文化の再構築を目指そう。

## 2 ジョブシャドウイングの具体的実践例

次のような授業場面における実例を示す。

国語の授業中に小学 3 年生の A 君が音読をしているが、声量が小さく、よく聞き取れない。実践的指導力の高い教師はどのように指導するか。

次のような指導が行われた。  
A 君の音読の声量が小さいと指摘し、正しい呼吸法を教え、もう一度音読させ、向上させた。

A 君の声量が小さい事実を見逃さない「教育者としての使命感」、3 年生であればどの程度の声量が適正かという「人間の成長・発達についての深い理解」、必ず向上させるとして「児童に対する教育的愛情」、声量を適正にするために呼吸が大切だということ科などに対する専門的知識」、音読ができるようになる喜びが人生を豊かにするという「広く豊かな教養」が、このささやかな指導の意味なのである。

このような事例を、初任者はどのように学ぶべきか。先程の手順に当てはめる。

### ① 手本を見る。

指導教諭の授業を参観する。授業中に次のような指導が行われた。

国語の授業中に小学 3 年生の A 君が音読をしているが、声量が小さく、よく聞き取れない。そこで、指導教諭は次のように指導した。

「A 君の音読はもう少し声を大きくすると良い。その為には息をしっかりと吸いのが大切だよ。さあ、息を吸ってごらん。そうしてから声を出すのだよ。」

A 君の音読は改善し、A 君は向上した。

### ② 手本の意味を知る。

放課後のリフレクションで、次のような解説を聞く。

まず、A 君の声量が小さい事実を見逃してはいけない。(教育者としての使命感)当然、3 年生であればどの程度の声量が適正かという理想状態を分かっている必要がある。(人間の成長・発達についての深い理解)そして、必ず向上させるという教師の思いが必要だ。(児童に対する教育的愛情)その為に声量を適正にするための指導事項を知っている必要がある。A 君の場合は呼吸を改善する必要がある。頑張って声を出すのだよという根性論ばかりではいけないよ。(教科などに対する専門的知識)音読ができるようになる喜びが A 君の人生を豊かにするのだよ。(広く豊かな教養)

### ③ 練習する。

説明を聞いた後、模擬授業の形式で、音読指導を練習する。指導教諭が子供役を

する。

### ④ 実践する。

次の日の授業で、一場面を任せてもらい、音読指導を行う。

### ⑤ 評価を受け、反省・改善する。

指導教諭に参観してもらい、指摘を受け、反省し、改善する。

### ⑥ 工夫をする。

次の日の授業でも、音読指導をする。その際、自ら考え、聞き方指導を入れるなどの工夫をする。

このような手順でこのような内容を学び続ける教師を育て、学び続ける教師文化を再構築しよう。